

本草図譜卷之八十八目錄

灌木類

一種	一種	一種	一種	一種	一種
木莖枝	かきくさき	くろむめき	ふらむめ	ふらむめ	ふらむめ
十	八		一	一	
栲骨	一種	冬青	女真	鼠李	一種
むいりき	みちりき	もちのき	ねつこもち	あかき	あかき
十	九	七	五	四	二

本草図譜
 卷之八十七
 三



一種	一種	一種	一種	一種	一種	衛矛
まろいあんさん	いかにあんさん	紅あんさん	あんさん	あまのあま	あまのあま	あまのあま
三	三	九	七	五	三	三
一種	一種	一種	一種	南燭	山礬	一種
うららみ	いとあんさん	竹葉あんさん	つあんさん	あんさん	そのいん	かまのいん
	三	廿	六	六	五	三

本草図譜卷之八十八

灌木類

郁李

みはちめ

あちめ

棠李

事物
異名

庭際小多く栽せ小爪やて高さ三四尺に過り根多く叢生し春新葉を
 生れ形李の葉に似て小く互生し同時葉の長ささす時葉の丸さ
 蒼を生れ同く時ハ五瓣白色小紅を帯ひ大さ四五分計ノ小く美し
 後実を結ぶ形四ノ一で大さ四五分初ハ綠色夏月ハ至る熟すと赤色
 とふる味酸甘一実の中核あり此核中の白仁を標て薬用とれ

東都 岩崎常正 著
 男 岩崎信正
 門人 小山廣存 校



本草図譜 卷之八

樹葉とも小丸
あめのみ似て春月
葉の瓜より蒼も
生れ閑く時々数
十辨より形状菊
花の如く淡紅色
なりて美し後実
も能ふとつても
みづかふときハ形状
小ハむめと同一

ハハ
ナニナリ



本草図譜 卷之八

郁李



本草図譜

卷之九



一種

本草図譜

卷之九

樹葉とも前糸
似て春月葉の本
を生理開く時ハ
又前糸と同一を
与後実を結ふと
と七折あり結ふ
形状よりむめり
実と同一



下總小金武州戸田木の
原野に生れ高さ七八尺
小至り葉の形茶色似て
大に立生し利枝ありて
刺不似り春月枝の
同小小き黄白色の
花を攢簇し秋に至
りて実大なる形状
蒴菓の如く熟を小
ハ藍黑色とふ中不
仁あり脂多し葉の味
ひ波く苦し毒ありと
ソツツ



鼠李 おまのり

らろむめもとき 戸江

ろーろろー 州甲

とりめがしん 前越

コガク 味い苦く 故に毒く

緑子 本経 逢原

蜀州鼠李

備忘本草



本草図譜 卷之八

一種

うろむめもとき、京

葉の形萌虫より
至て小く春月新
葉の本亦小く淡黄
色の花を腋生り
後実を結ぶ形状
前葉より小く熟
すと水ハ藍黑色と
す



女貞

ぬつともち

鈔名

みやほあき

本草

たりのき 上

やぶはなつき

てふはまき

別稱

山ゆき

いたし

前名

水冬青

物理

冬

生

本草

凍青樹

救荒
本草

樹高さ一丈余枝條繁茂葉冬凋き形冬青に似て兩頭尖り
枝葉并生し夏月枝の梢小穂を帯び小き白花を攢簇し後実
を結小四くこ長しなり形薊の床に似たり熟すと水ハ紫黑色と
す

本草図譜 卷之八



本草
図譜

卷之八

六



Small circular red seal at the bottom right corner of the left page.

女貞

本草
図譜

卷之八

五



本草図譜 卷之十一

一種

葉の形四角を先尖り紋脈の
回小く丸く皺の如く梢の穂を
以て花を同く形ぬつてまの如く



後実を結ぶ
田今こ豆の如
く熟せれば黒
色とぶ

冬青

もちのき

万年枝 異名

長生 詳註

万年樹 詳註

万年木 通名

冬牆 沙南

種類多し樹高丈余葉互生し形女貞より潤く光澤あり
横の皺紋多く平くやを冬月を証し夏月葉の同く五辨
の小さく白色の花を葎生し後実を結ぶ初は綠色熟せば赤色と
ぶ形標の實の如く

本草図譜 卷之十一





冬青

本草圖譜
卷之



本草図譜

卷之八

一種



ふくふち

葉の形前条より
田く大くを先き
尖る花ハ葉の同
お生しと形又前条
と同し

本草図譜

卷之八

一種



あしもち

あしもちのさ
大知
本草

庭除ハ多く裁中葉の
形もつおくお似て厚く
冬凋らん葉ハ赤もふ
しと六七類をまれ



本草図譜 卷之八十九



一種 木 茨 枝 和俗 花序 ちまもち 州薩

もちのき 同花序伊豆 熱見亦言 へびをま

四國山中多ク
河と云樹ハ冬青ハ
似リ葉モ又冬青
ニ似テ潤ク兩頭尖
リ梢ノ葉ノ同ト也
鮮ク小キ白花セ同
ク形又冬青の花
ト

本草図譜 卷之八十九





冬月葉の同く小白花を茂
 生れ微く香け後冬も能ふ
 大々大豆の如く長く初め
 青色を水に黒紫藍色に
 赤く俗にとけおきをめむ
 らまといひしり刺種は此



拘骨

云いふき

乞ひき

を木のめつき

を木のむ

猫頭刺 通

猫刺 上目

山中の多し又人家中
 裁に籬と云は葉や真
 小似て柔く硬く用ひ
 刺あり冬を鑑て潤き

本草図譜
卷之八
十一

本草図譜
卷之八
十一



紅色とあり、自ら裂て紅雲を
 現れ、形狂中の如く、葉も冬月
 に至れば、紅色或は紫色とあり、
 散るに、枝幹とも、わきの葉と
 同し、初めの形とあり、初青色
 後、褐色とあり、此初とあり、
 葉用とあり



衛矛
 りそまゆこ

山中か生に人宛か、うり、木高
 さ丈許り、枝葉、計生、葉の
 形、枝中、似、長、一寸許り、
 葉、五六分、細、鈍、齒、同、春
 新葉の、同、浅、緑、色、の、小、花
 を、用、き、後、実、も、皆、不、形、状、扁
 平、く、三、分、許り、秋、の、葉、熟、し、

かハ、ら、ま、つ、ぶ
 知、能
 や、ま、の、こ、み、き、
 かり、き、
 や、ま、の、こ、み、き、
 かり、き、



本草図譜 卷之八十八



葉の形大なりて桃の葉の如く深緑色なりて周不細き鋸齒有り春葉の間ハ
 長と茎をふりと花を同く形前赤く似たり実円くして大き三四分熟てん
 ハ裂て中の実頭を形又前赤く同くは羽の形なりといふも少くは小
 さい只普の説ハ葉は桃と云ふもの小同し



一種

やまのしきり
 まさき江
 ふとふとさし
 中載

本草図譜 卷之八十八



本草図譜
卷之十八
十三

葉の形四角にて山茶の葉に似て薄く小
花ハ前茶と同一実も又前茶に似たり 枝
幹とも小羽あり此物茶類の訛不葉似野
茶と云ふものあり



一種

まろものちきり

本草図譜
卷之十八
十三



本草図譜 寄別九百二十一

本草図譜 卷之六



山中に生れ樹高丈余葉冬を經て相まじり形うちあし不似て深緑
色なりて光澤あり枝葉とも不立生れ春月葉の固小一二寸の穂を數重
生し丸餅白色の花を開き黄色の葉を生れ香氣きたよりし

山 櫻

そのしん とうしん 前 ちりちめしん 上日

あまらうき 向 しろむい あくろぶ

そらもち 州 梅 弟 名物 幽 客 便覧

丸 黒 香 小物 識



本草圖譜

卷之十八

十五

一種

筑前の国大
嶋島味、産
此の草の
形前条より
小く穂の形も
又同じ室の細
長く黄褐色
あり



南燭

ふんてん江

あつてん宗

あつてん

三葉

和方書

南天竹

烏菜

本証

烏草

類書纂要

南草

本草註

南天竺

初釋花鏡

大椿

黒飯樹

在令

楊桐草

細目石南食明

人家多く或女最も陰地不寧し西國が大樹なりて柱と云はるべき物あり
りと云ふ葉ハ一莖數十葉を生じ一葉ハ形ハ夏の葉ハ似て小く莖
細し四時凋すは春月新葉を生じ紅色を淡青色ハ夏月梢ハ五
六寸の穂を生じ數十花を開く一花の形三分許り白色六瓣之蒼の
時ハ散解の葉ありて千葉の如しといふも聞くとすは葉落て六瓣
と云ふ証不敷易しと見難し後実を結ぶ初青色冬ハ至り熟
して深紅色と云ふ能養ハとすハ春ハ至らまては此物ハ一種不實
白色の抑一種黄色のものあり

本草
図譜

卷之八十八

十六



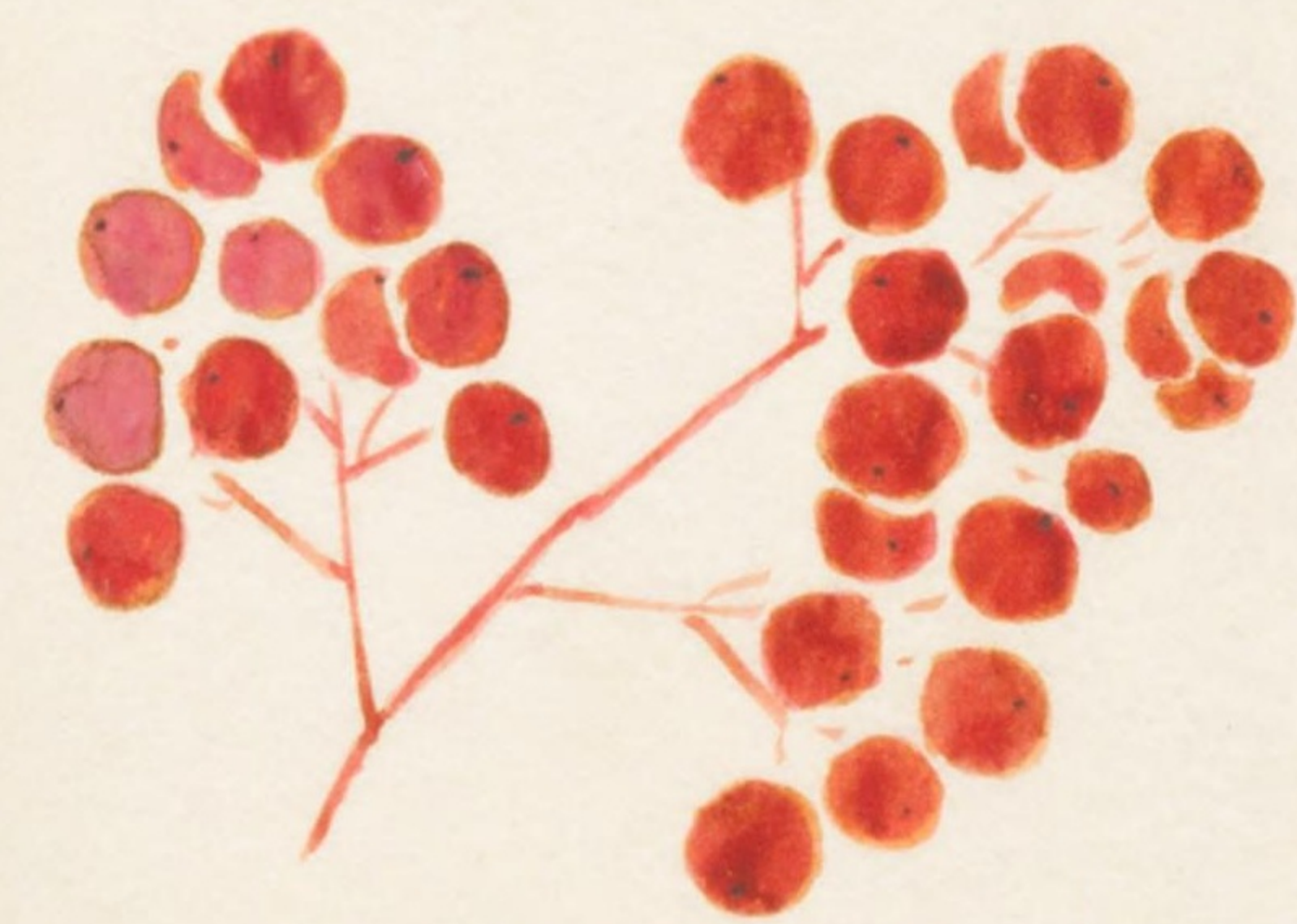
南燭

本草
図譜

卷之八十八

十六





一種 紅あんてん

葉の形あんてんお似て細く長く
 新葉より紅色を帯ひて美しく花
 の形もあんてんお似て蒼紅色
 同くときハ淡紅と赤く又同
 くハ紅色あり

本草
 圖譜
 卷之八

七



本草図譜 卷之八十八

葉の形ふんてんふぬて皺を故
脈縮こ皺もふく茎ハ屈曲して
蔓のヤリ花ハ赤の茎と同一
く實も又ふく紅色あり



一種

つるふんてん

本草図譜

卷之八十八

十八



本草図譜



葉の形紅ふんてん不似て細
く先尖り茎葉の形と異小
し今九段形いかしの如し
花の常り西の国

一種

本草図譜



いかだふんてん





白色実も白色
あり



一種
竹葉
たんごん

葉の形中より先
細く竹葉の如く花
ハ常の草と同一にて

本草図譜
卷之八
七





一種

葉の形細くを大葉の物へ幅
 二分許り小葉の物へ一分許り
 莖葉の三多細く長し花り
 常の物と同一

本草
 圖譜
 卷之六十八



本草図譜

卷之八

廿二

一種

しろみちんこん

花葉とも赤帯の帯は
似て紅色すく実熟は
れは白色なり



一種

いとみんこん



葉の形至こ細く初生の
物の糸の如く長中れら
一命許り至り花実ハ
常の品と同し

本草図譜

卷之八

廿二



本草図譜卷之八十九目錄

灌木類

五加	抱杞	地骨皮	一種	一種	一種
むぎき	ぬこくびり	たうつぎ	一種	一種	一種
一種	三	一種	一種	七	一種
一種	枸棘解集	澁朮	一種	一種	一種
	うつき				
	四	五			
					九



花葉とも常の品
 お似て実熟をれり
 白色に微し褐色も
 帯へり

一種

本草図譜
 卷之八十九

